

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立成名小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

自然を愛し、自ら考え行動する 心あたたかい成名っ子の育成

自分で考えねば強かんばる子
素直で思いやりのある子
体をきたえる元気な子

今年度の指導の重点

- 1 基礎学力の充実を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。
- 2 一人一人のよさを生かしながら、自主的・創造的な活動の推進を図る。
- 3 人権尊重の精神を養い、互いに励まし合って向上しようとする態度を育てる。
- 4 自然体験を重視し、たくましい心身の育成と体力の向上に努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

国語A・Bの正答率は、ともに県平均を上回る。特にA問題は、全国・県平均正答率よりかなり高い結果となった。情景描写の効果を捉える:本校77.8%(全国58.7%)、国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する:本校94.4%(全国74.3%)。
漢字の読みは、県平均正答率を下回る。二つの詩を比べて読んで考えたことを書く:本校38.9%(全国48.1%)。算数Aは、県平均よりやや下回っているが、算数Bは、県平均並みである。県平均との差は、どちらも昨年度より縮まっている。
基本的な四則計算は強いが、数量や図形の問題はA・Bともに弱い。
基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する:本校平均正答率61.1%(全国46.1%)、基準量と比較量を捉え、倍を求める:本校61.1%(全国82.5%)。

県

国語、社会、算数は、県平均正答率を下回る。理科は、県の平均正答率と同程度の結果であった。
国語は、話すこと・聞くことの領域は、県平均正答率を上回る。読むこと、言語事項については、県平均を下回る。文の定義の理解:本校14.3%(県51.1%)。
社会は、3・4年生の学習内容は、定着している。5年生の食糧生産、6年生の歴史・政治に関する問題は、県の平均正答率を下回るものが多い。
算数は、小数と分数の混合の乗法:本校平均正答率57.1%(県71.5%)など、数と計算領域が弱い。
数量関係の問題も県の平均正答率を下回るものが多い。
理科は、自然事象についての知識・理解:本校平均正答率67.9%(県60.9%)とかなり高い結果となった。
観察・実験の技能の問題は、全体的に弱い傾向にある。

【学習状況調査の結果】

読書を普段30分以上している児童の割合が県平均を上回っている。
「学校へ行くのが楽しい」と感じている児童の割合が県平均と比べてかなり高い。
「先生はよいところを認めてくれる」と感じているこの割合も県平均と比べるとかなり高い。
土日の家庭学習が1時間未満の児童が県平均に比べてかなり高い。
「自分には、よいところがある」と思っている児童の割合が県平均よりかなり下回っている。
テレビ、DVDの視聴時間は、県平均と大きな差はない。
総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する活動に取り組んでいることに「当てはまらない」と選んだ児童の割合が県平均をかなり上回る。
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている児童の割合は、県平均より高い。
国語の授業の内容は、よく分かると答えた児童の割合は、県平均よりかなり高いが、算数は、よく分かると答えた児童の割合がかなり低い。

成果と課題

時計を見て行動することを意識付け、チャイムで始まり、チャイムで終わる学習規律の徹底を図った。
基礎基本の充実のために、朝学習、放課後補充学習に取り組んだ。
「ねらい」「まとめ」「ふり返り」を意識した授業を全学年で取り組んだ。
ペア学習、グループ学習を取り入れて、児童の相互理解や学習意欲を高める工夫を行った。
新出漢字の筆順、意味調べ、文作り、小テストを繰り返し定着を図った。
自分の思いや感じたことを書くことには抵抗ないが、条件に合わせて文章で書き表すことは苦手である。
基礎基本は身につけているが、活用問題に限らず、基礎問題の中でも問題文を読み取れない児童が多い。
平日の家庭学習の習慣は、身につけているが、自ら進んで学習しようという意欲は今一歩である。
「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合が少ないことから、自尊感情を高めていく必要がある。

課題に対応した改善方法

漢字の読み書きや計算の小テストを定期的を実施し、児童のつまづきをきめ細かく把握し、個に応じた支援を行う。
「まとめ」「ふり返り」の場面で、字数やキーワード等の条件を入れながら自分の考えを書けるようにする。
予習・復習を全校で取り組む。望ましい自主学習の内容を指導したり、好事例を紹介したりするなどして、取り組みを活性化させる。
国語・算数の学力診断テストを実施し、結果を分析し、授業改善を図っていく。
「にっこ成名っ子カード」の取り組みをし、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣の確立を図る。
「ほめほめカード」を活用して、自尊感情を高めていく取り組みをしていく。

取組の検証方法及び検証時期

授業の中で記述問題をとり、考えを書いたり、伝えたりする時間を多く取り入れる。(授業時間、朝の活動)
漢字・計算の小テストや単元テストを実施し、児童自身にもふり返りをさせる。(単元末、学期末、学年末)
国語・算数の学力テストを実施し、定着が低い内容について検証し、補充問題をさせていく。(4月)
書くこと、伝えることに自信を持たせるため、作文の発表、日記を学級通信などで紹介する。(単元末、学級通信の発行時)
「にっこ成名っ子カード」を学期1回実施し、記録を残し、比較する。学級懇談でも話題にあげる。(6月、11月、2月)
学校生活アンケートを実施し、結果を受けて改善を図る。(学期末)

達成目標(数値目標)

4教科の平均正答率で県平均を上回る。
現在よりもテレビやゲームの時間を減らし、家庭学習の時間を増やす。(80%)
自分の考えを書いたり、伝えたりできるようにする。(80%)
「自分にはよいところがある」と回答する児童の割合を80%以上にする。